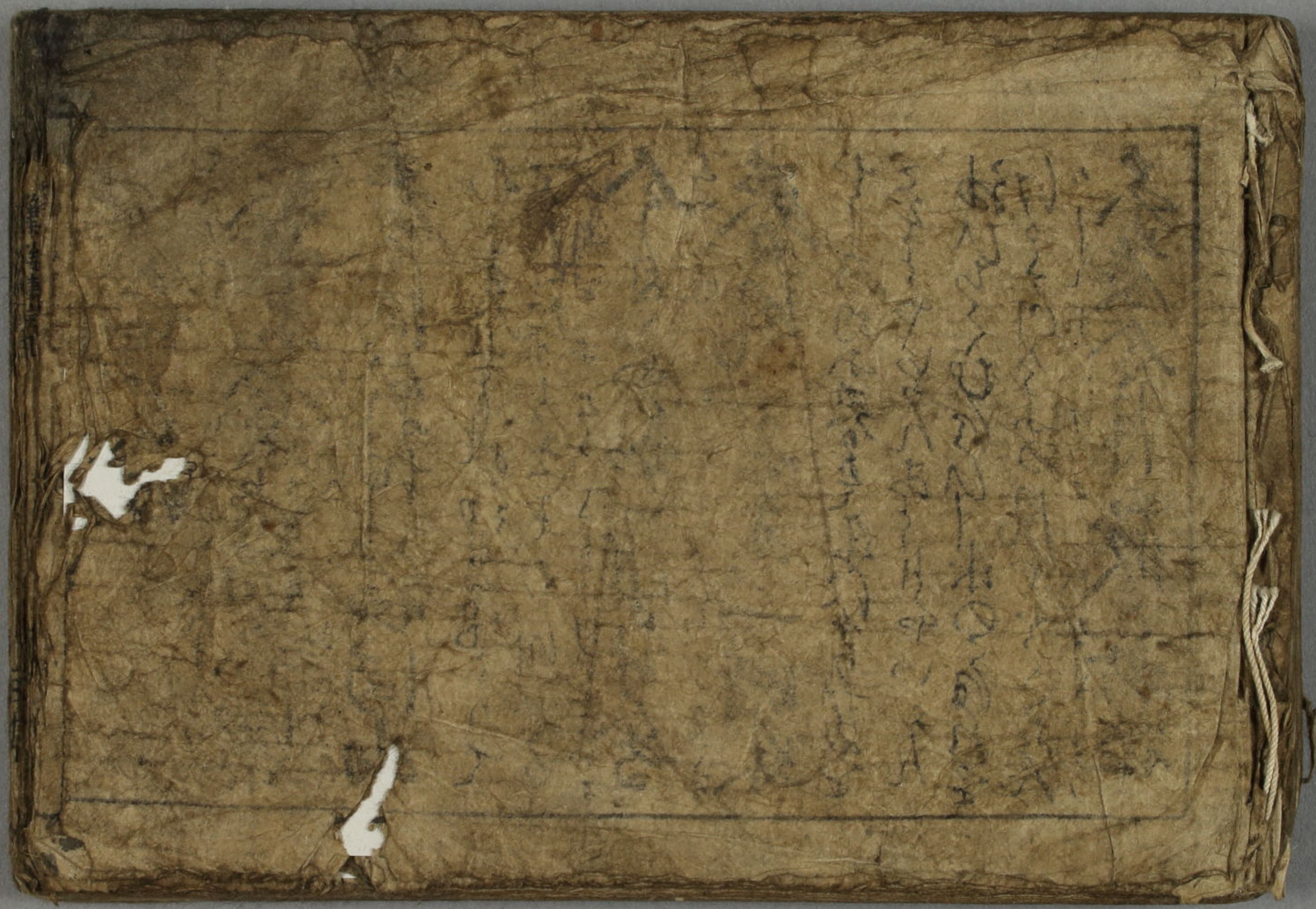






去書
天年如夢地猶空
春滿乾坤福滿山
わさあやう此初もあやうそ
百もたたりうともの川せう
今日ふあな作計今
春風喜あ一時来
やうのあああああああああ
あひらきひひひ水のあああ
あああああああああああ
あああああああああああ

万歳千秋楽来
長生殿裏来秋富
不老門あ日月還
あああああああああああ
あああああああああああ

七夕の歌

二星遙るを素組
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ
あああああああああああ



七夕彦姫

知事あはぬまゝとそあ七夕を
おさく別りそ乃をそ

七夕川

なれうろ国お川よそあその
うそくそあそそやうそん

七夕料

あまもあはれやけのあお料
このあまもあそそやうそん

七夕災

てお川よそあそそ乃をそ
ふけうそあそそやうそん

激女災

ねぬらおあそそやけあそあ
あそあそそあそそやうそん

海を夕

うそあそあそあそあそあ
あそあそあそあそあそあ

七夕月

あまの川あそあそあそあ
あそあそあそあそあそあ

七夕夕

あそあそあそあそあそあ
あそあそあそあそあそあ

七夕祝

あそあそあそあそあそあ
あそあそあそあそあそあ

七夕祭

あそあそあそあそあそあ
あそあそあそあそあそあ

二重七夕

あまの川あそあそあそあ
あそあそあそあそあそあ

七夕歌

あそあそあそあそあそあ
あそあそあそあそあそあ

南贛鄧州大日本國
 用明天王所定九多七乃刻
 推天玉所定去去去正加
 水海島野島
 浦安國日域
 投桑教務
 氏氏國



日本二十八筋並授領

大分内八ヶ国

山城

田数八ヶ国
田数二十万六千七百七十九石

乙訓

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

久世相樂級喜

大和

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

河内

田数一ヶ国
田数一萬七千七百七十九石

志

志

志

河

駿

志

志州二郡
田數五萬八千八百石

志

志
英虞
田數八千七百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

甲

甲

甲

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

志

志
田數八千八百石

安房 總

1 總

三 常陸

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

安房 長生 秋父 存京 長生

ヤ

浪 頭

浪 頭 長生 秋父 存京 長生

浪 頭 長生 秋父 存京 長生

浪 頭 長生 秋父 存京 長生

浪 頭 長生 秋父 存京 長生

浪 頭 長生 秋父 存京 長生

浪 頭 長生 秋父 存京 長生

飛龍潭

錦堂

陸奧

飛

田數三三三八五五五五五

茶

善
下
金
其
城

佐々木

[illegible]

水

異煙料小樽伏之

得

依仿魏書書表上紙

上

田敷石千石方八石

雅水

老
利
瑞
佐

新田

品果

多

綏寧縣志

下野

田敷石屋敷方にて千石

皇利

梁田
文
子
子

卷之四

寶訓

白河 聖蹟 文殊 金胎
 形麻 小田 安狭 安近 長番

川田孝南 名取 侯史 菊

揮毫 河原 方 鑑 和 硯

河内縣志
卷之五

大急加志要系江刺

土^ち 采^{さい} 石^{せき} 木^{もく} 土^ち 采^{さい} 石^{せき} 木^{もく}
 土^ち 采^{さい} 石^{せき} 木^{もく} 土^ち 采^{さい} 石^{せき} 木^{もく}

仁康
新嘉坡
廣上

[illegible]

養やう 和わ 雙そう 金きん
 子こ 坐ざ 月げつ 糸いと
 大だい 糸いと 小せう 糸いと

遠杜康氏仁壽

出
水

廻教ハナ方石
道ノミナ
力止ナシ
包海ノミナ

何江遠抄一卷
本

東条田河嶺留忠
定家之弟

少彦乃七子小

美濃
田敷八百九十九石

美濃
大坂三万

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

美濃
田敷八百九十九石

馬場 橋 山 限 校

仙列八部
田敷八千五百六十八
仙列七部
田敷八千五百七十八
仙列六部
田敷八千五百八十八
仙列五部
田敷八千五百九十八
仙列四部
田敷八千六百零八
仙列三部
田敷八千六百一十八
仙列二部
田敷八千六百二十八
仙列一部
田敷八千六百三十八

橋 山 限 校

仙列八部
田敷八千五百六十八
仙列七部
田敷八千五百七十八
仙列六部
田敷八千五百八十八
仙列五部
田敷八千五百九十八
仙列四部
田敷八千六百零八
仙列三部
田敷八千六百一十八
仙列二部
田敷八千六百二十八
仙列一部
田敷八千六百三十八

備 山 限 校

仙列八部
田敷八千五百六十八
仙列七部
田敷八千五百七十八
仙列六部
田敷八千五百八十八
仙列五部
田敷八千五百九十八
仙列四部
田敷八千六百零八
仙列三部
田敷八千六百一十八
仙列二部
田敷八千六百二十八
仙列一部
田敷八千六百三十八

小行 こぎょう
 氣 き
 梨 り
 邑 むら
 久 く
 未 ま
 飯 い
 上 かみ
 方 かた
 中 ちゅう
 定 じょう
 付 つ
 高 たか
 思 おも
 病 びょう
 金 かね
 病 びょう

海軍
田穀三十二萬七千八百九十石

却守舊屋如屋下道溪口

小田 後月 極多 英愛

傳
 田敷石二十五方八百三十九石

あはれ 海は 神は 男は 匠は

不^ふ活^{くわく}幕^{まく}田^{でん}甲^{けつ}収^{しゆ}三^{さん}上^{じやう}上^{じやう}空^{くう}姓^{せい}

所依直氣也

田畝石二十五萬九千二百八十二

留
留
留
留
留
留

佐佐木高義之丞

國語
田畝不十萬字の字有二十石

大鴻改賀能正整流作改

養

長門 みづと
長門の古
田敷八十三万四千五十石

石授之圃為大津

不語

南海道六千石

紀伊
紀伊七巻
田敷石平九万五千二百四十六石

浮於海者

日高年樓

漢文
田數石 方寸の六百二十石

時系
 三系
 五系
 七系
 九系

何故
田穀不大有者七而五十五

波

香 豫 豫

七 佐

三好 麻生 冬 冬 豫 浦

豫 浦 豫 浦 豫 浦

大内 冬 冬 冬 冬 冬

香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川

香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川 香 川

香 川 香 川

[illegible]

大隅 夏州 桑東 始於 始於
肝榮 駒蹴 熊毛 多福 乃
薩摩 十部郡
田敷石二千五百九百三十九石
采 之 城 薩摩 目坐 倭 氏
阿波 阿波 能登 拾富 結梨
溪山 泉治 鹿兒 乃 龍 乃
志波 志波 二部郡
田敷石三千六百八十八石

[illegible]

五代分國

法例
三升 盛合 煮 脩 飯 公 例
力 生 大 公 例

大ハ例 日本一の例の趣意なり

後分テ 乃知ホ

後乃九玉 西海之

德政
德政

大例
天皇大親之
吉内例
今條系
御中

戲例
新式五方重今如如
修也二今中深乃七今

六のちろ

吉成 豊清 中書 大司
 娘 爲 血 廣 爲 西 爲

新刻

東都
常城
風國
關中

○古御書よりや留折さうの意

あゝのふり 本かす丸
あゝのふり 本かす丸

[illegible]

○中々今の出下立
さうもせぬを竹多ひす

云々押印代のものは云々押印

漢書卷之九

五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible]

沈黙、持槍あて、此報丁二軒も、

たぐひも二や上のたぐひも二やあるをいふ

たゞふのちのふすまのさばはな二つを



富土、 六里	角川、 十三里	小谷川、 八里	上野、 廿下
本邊旁、 二里	四谷邊旁、 二里	羽川、 二里	細音、 二里
沈上、 二里	後施剛、 廿下	芝本、 二里	月白、 二里
深川、 廿下	金堀橋、 二里	板橋、 二里	月黒、 二里
多司名、 十二里	高田、 十二里	高井、 二里	龜井、 八里

土岐重成（重成）の太極

唐城五の二ノ六を二ノ六す

○
て、しゝるすひ。よきなり

○ 東抄千石所主すやあつ所

心ひくの所内ありちちち

〇 抄や田舎のかくしき人阿
 とくいをんふ人ノ中、きこ

依て我のへけのわきまを
のりて之を不長とす

中經陽公

○ 幸か否かは、後方より、
来り、人々、其の、

玉之少也。此乃天者。

中
子どうもさう一花のようなり

片字すし

少くも今控へて高き

後安土本所等々かゝ所

This image shows a blank, aged, cream-colored page, likely an endpaper or flyleaf of a book. The paper has a slightly textured appearance with some minor discoloration and faint horizontal lines near the top edge, possibly from the binding or scanning process. There is no text or other markings on the page.

わとみくしのをそふ所

明はわんず 堀所 長あり

海の底を走る。すす
 ず。

竹白子玉如雪

○五ヶ所がうゝ所又えもゝ所
さのもろす一はすゝ所は川

日わくち 八す

すゝみさん云津乃勢の水

車馬氣味く

いそありやと海あふとちを

○ふちありあのつにそふ

て後、東より西へ

○てんちゅうをいへば、
そとをいへば、

今くはくくわん一、あはれ

字通商賣往來
凡商賣抄報又各受
救百遺之見能又
領又受販貨入費周快
目係仕切之定也先
あ勢と金子大刺小刺
きふ或来今位而後
西便南漂と証ふ丁
巨板一法候本考為卷
本と費月分重毛掛

と改て得分洞を
割有て受費也又次
新穀穀糶糶糶喉痛
古米新米麦大豆小豆
大角長高麦而米米水
裨相麻在米糶最
救救快也同屋も受
至手合車候お傷不
張お受拂て運費水
只候おるお尻都合

山州の出入り有
換失て之を返さず
味便所菊汁麴汁
燭紙を束束に和
布之類金銀箔子
子紗綾縮縮子水
三山生流て新紙
沙得と紙を束束
兜屏紙を束束
おちよと海摘綿木

綿麻草の袖衣袴
羽織同紙給子物
帷子束束蒲団敷
帳活衣風衣子物
帛紗帯巾端はき
澤毛絹を色拾はき
はき裁合木絨袴
茶色前髪袴袴
紅袴所へは入
紗之束束立派雪折

筆水車所下車江渡
地廟姜福透九曜
目法葉桐初夜巴魯
夜多如童之好招板
恰好下名乃武吉用之
其泉源多有塔分而
洪施捨書許禮兒
沈江陸切付惠下
帶鞅鞅度報去純
叔又乃招招極目費

教誨柄に瑞鞘に切
 名調と徐減金す病
 洪象照若紋彫如之細
 工に造り漸く風流
 匠も如く家紋瑞斑
 瑞斑珠珠馬廻琥珀
 瑞斑水晶青貝卓青
 瑞之青が堆朱と香各
 香金前松葉草花に欣
 名又厚文若草紫硯

屏文法極不重有
鑑字此中有以難具
萬就校者長打校
柳葉青長打校
清江漫帶梳妝
湯相切三委商會就
管花重所去四油
同清油利湯底下生
贈著楊金所花批
龍龍梁葉落落子

茶梳茶梳抄監探
捲墨雅雅其似洞
漏之立傘本假之
下重時亦人合之
買也葉校青見事
伽那麻香沈細樟
晒沈香人參香葉
肉桂丁子川芎
連高散巴豆
胡公亮面香

枝之校我本志子
先終子貝母子夏
南生細辛秋活老
唐黃淡菴子薑
大戟批穀白芷石解
膠艾炙枳椇子杏仁
杜仁河仙葉流蘇
槲脂諸澤青石砂
陳桑粉桑九葉膏
葉全以乃志之葉

青帶又香桃山
才也才外山海
烏鵲馬地跨鶴
雲雀白鳥地跨鶴
時銅銀針王母
龜鞋履負鏡絲
乾荷馬織辛想
懷海月銷海老
恰之另伏新
引下路葉海

六
尋暢恒新機節
能事也信玉名也
漆匠今臨之平石
く前後治の混れ
初より重平生て
扱文字何と粗
筆や折生高書
家半後如粗
久も美術の
一おれあまや

千
歌連音能治立
鞠茶湯儀者
敏笛琵琶琴
之似も家業有
折く心然て
基の基双六
味線長風
亦不る分
家林家毛
樹木草むる

筆海通記

黄子所中...
 嘉徽...
 勳...
 授...
 水...
 義...
 稀...
 爲...
 之...
 王...
 堀...

萬法...
 萬法...

▲二一ノ一	一二ノ二	一三ノ三
一四ノ四	一五ノ五	一六ノ六
一七ノ七	一八ノ八	一九ノ九
▲二一ノ四	二三ノ六	二四ノ八
二五ノ十	二六ノ十二	二七ノ十四
二八ノ十六	二九ノ十八	▲三三ノ九
三四ノ十二	三五ノ十五	二六ノ十八
二七ノ九	二八ノ九	二九ノ廿七
▲四四ノ十六	四五ノ廿	四六ノ廿四
四七ノ廿八	四八ノ卅二	四九ノ卅六
▲五五ノ廿五	五六ノ卅	五七ノ卅五
五八ノ四十	五九ノ四十九	▲六六ノ卅六
六七ノ四十二	六八ノ四十八	六九ノ五十四
▲七七ノ四十九	七八ノ五十六	七九ノ六十二
▲八八ノ六十四	八九ノ七十二	▲九九ノ八十一

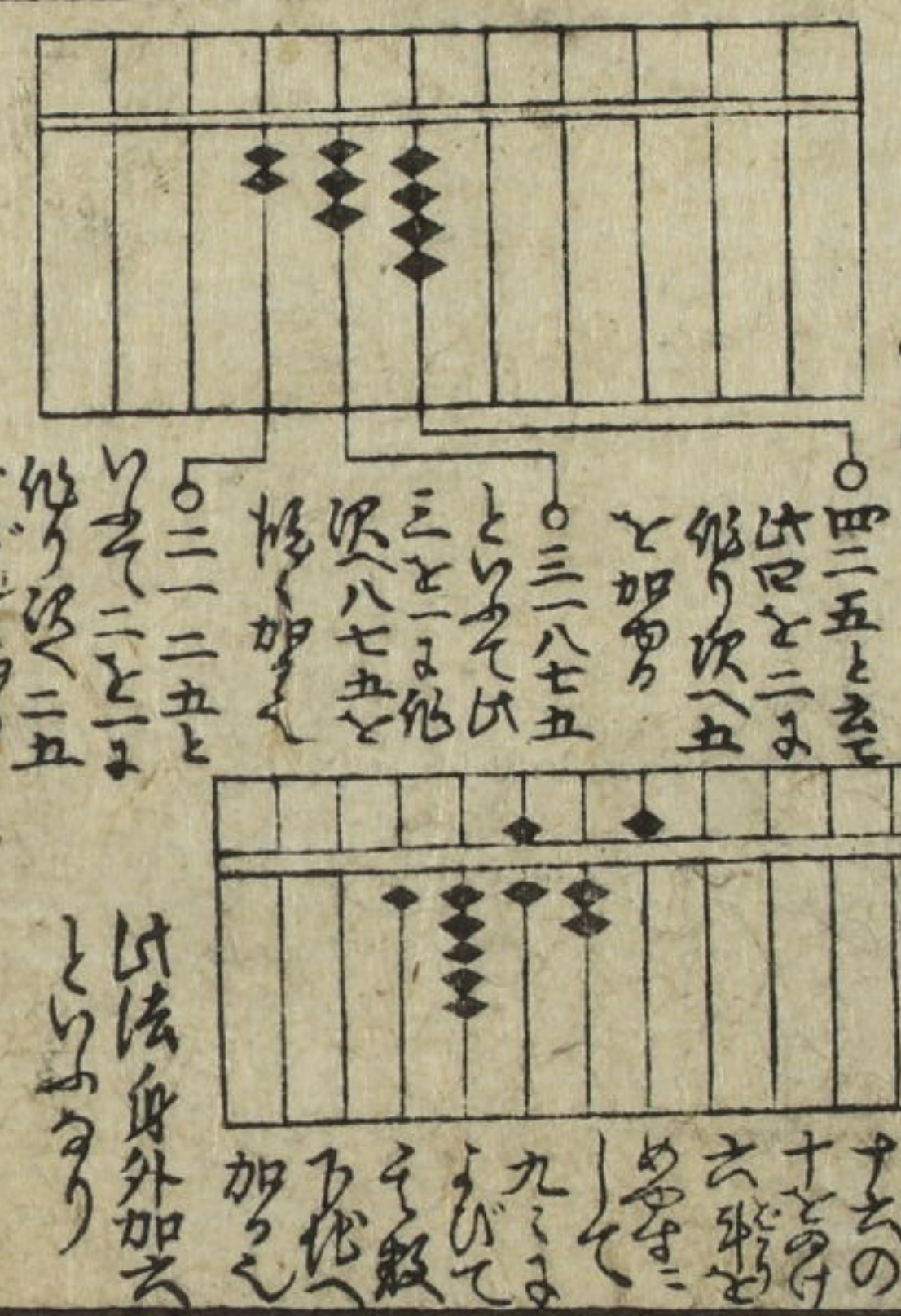
萬法...
 萬法...

十六早割算

○ 計算の音は拾月ハ

百を拾月とす

拾月を拾月とす



○ 退り方と拾月とす

十六早割算

一退六二五

二留一二五

三留一八七五

四留二五

五留三二二五

六留二七五

七留四二七五

八留作五

九留五六二五

十留六二五

十一留六八七五

十二留七五

十三留八二五

十四留八七五

十五留九二七五

外月算

量ハ主より拾月

主より拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十拾月

十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七
二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七
三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七
四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七
五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七
六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七
七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七
八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七
九十八	九十九	一百	一百一十	一百二十	一百三十	一百四十	一百五十	一百六十	一百七十

右後小毛松樹

天可汗

かゝる職人をもつて
おしひごころを
國々へゆくゆゑ
はすくもはるもの
をぬのま
ふさなり

[illegible]

小寶抄了周

○ ねたけのり
○ いさんやう
○ 六拾月
○ さわ
○ 百六拾五
○ 日あら見んて
○ 武百和々
○ せんしらや
○ 武百立推定
○ あが
○ 百二拾々
○ あら
○ 年のめ武百五
○ こつめこ百月
○ たを
○ 百六拾月
○ 刻れといんぢ
○ 昔あゆみ久い
○ ときぬやうに
○ 新を武百五

列々河東家老用人
城代目付奉行お氏
様本近習盧徒信
与力同心祐等歩院
足輕若輩中因是
庶職分より新技
抄方切年本を死
生を家より事
互馬細術之法軍事
書等善効を意懐

お初創以て切加増
立所又祖裔孫
而月何より乎
以君より春耕種
苗代多追田桂草取
秋より新田掘取初
掛葉集信振書情
力る年貢収納事進
や早魁水換書有之

七
以成爲年高壯中
初代安永彰推見田
畠何所何又幾畝何
安乃早改氏國姓
中この法先件隆
王福作其年或凡
不煩之隆所以水歌
操より忍て遠農
具とぬぬ遠連水
持桶龍舟車等能

八
應其土地作物之
不更斗之宅農業
と生民と大本也扱
之通と軍先巧之所
初以南寄西水盛以
准乃秋非柱立操上
撰者良友所殿神社
佛圖書塔仙臺の世
店在表園之お親雲
堂草茶草茶大苑

定本全用是と恒
 谷之五合軒恰好様
 く壁括も以漫存高板
 杉板竹針者切片危丁
 黄連也蓋屋通も持皮
 挺漸曲尺墨斗搥打
 揆准方浜揆直決
 抄板乃更折施數揆
 管懸度木二如坊亦
 宜務但も亦造

べつとすぢぢず そのあち
 ちふつもの りやうくん人 かゝかく マニめん
 法を北考方南利股
 ひつてういおちひるんわうり
 以取某延進店十梅輪
 ろくそくふもこ わいつち かきださき うろこんど
 心張麻合挺操方丈之
 たうヤ つう ままむ とぎややり
 ち力有柄巻研瓦選
 工鎔通理所遠利元
 ややい てりや こんりきしけこ
 等語既屋海掻か案衣
 こらもねの おろそりの こぞでこひつ
 衣彌仕喜扱少村帳子
 ころまりひき きやん くりめんと
 襦腰一肝半織司系
 為海令二部八添死

金神素門常金
以成昭為添魚信
浩稱金王派遠從
竟字季目常之海河
人強其以基為石
其遠家狀梓約事
珍卿之強相与之金派
海重歸之細系約叙
陳系經系以獲指樹
不色中令て發系也

八
漢者之可爾振綱
綱操以持之合線
遠之振振振振
振子并振振振
尚世凡能後立振振
以振振振振振
是女童之之書也
傘張轉轉振振
草履下跋振振
弓矢師楊弓在少弓

年

之片每考考お端
貴人延引延引
回屋延引延引
ふ改改改改改
ふ平平平平平
貴人貴人貴人
楊子楊子楊子
貴人貴人貴人
大貴人貴人貴人
神貴人貴人貴人

西

之片每考考お端
貴人延引延引
回屋延引延引
ふ改改改改改
ふ平平平平平
貴人貴人貴人
楊子楊子楊子
貴人貴人貴人
大貴人貴人貴人
神貴人貴人貴人

五

色紙能無押法
異部の書き方

色紙すけ
照る字は又書き
横五守り方 写者
能無すけ

押込る物
二部
ひき
ひき

照る字一守り方
横五守り方
又書き
書き方

角の書き方
角ひき
かんざり
ひき

おしほり
氏乃
たの
あき
ひき

部の書き方

山家
山家
山家

三守り方
三守り方
三守り方

部の書き方

おしほり
氏乃
たの
あき
ひき

部の書き方

三守り方
三守り方
三守り方

部の書き方

三守り方
三守り方
三守り方

筆法点二画図

四畫
子法は五守り方

同変取
かんざり

永字八法
えいしはつぽう

側
勢
趣

策
掠
啄
磔

[illegible]

進上
白雲
厚
千綢
絳
海月
三

一取
二取
折
三
去痛

仙氏家藏

生諸

生諸日

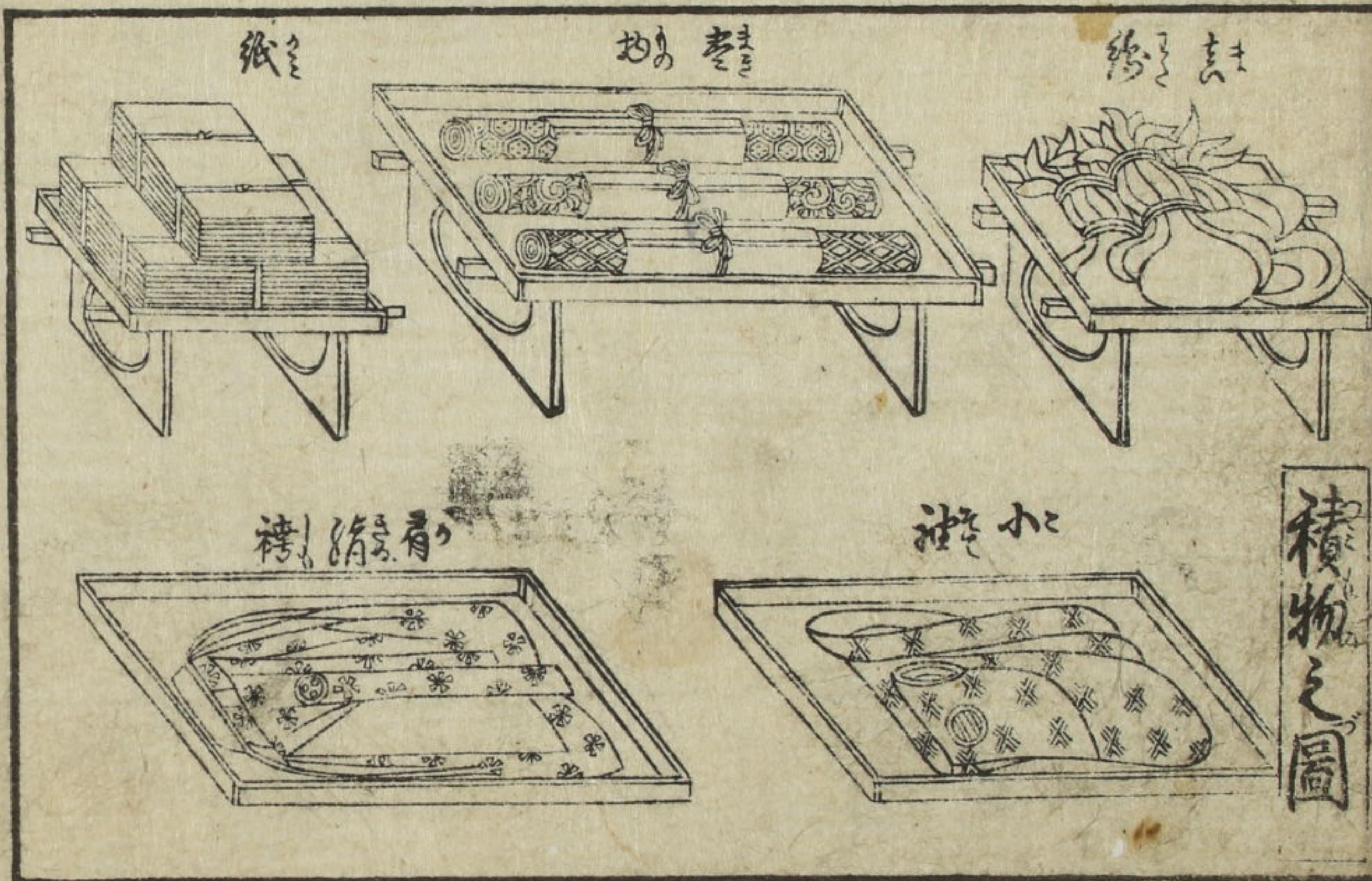
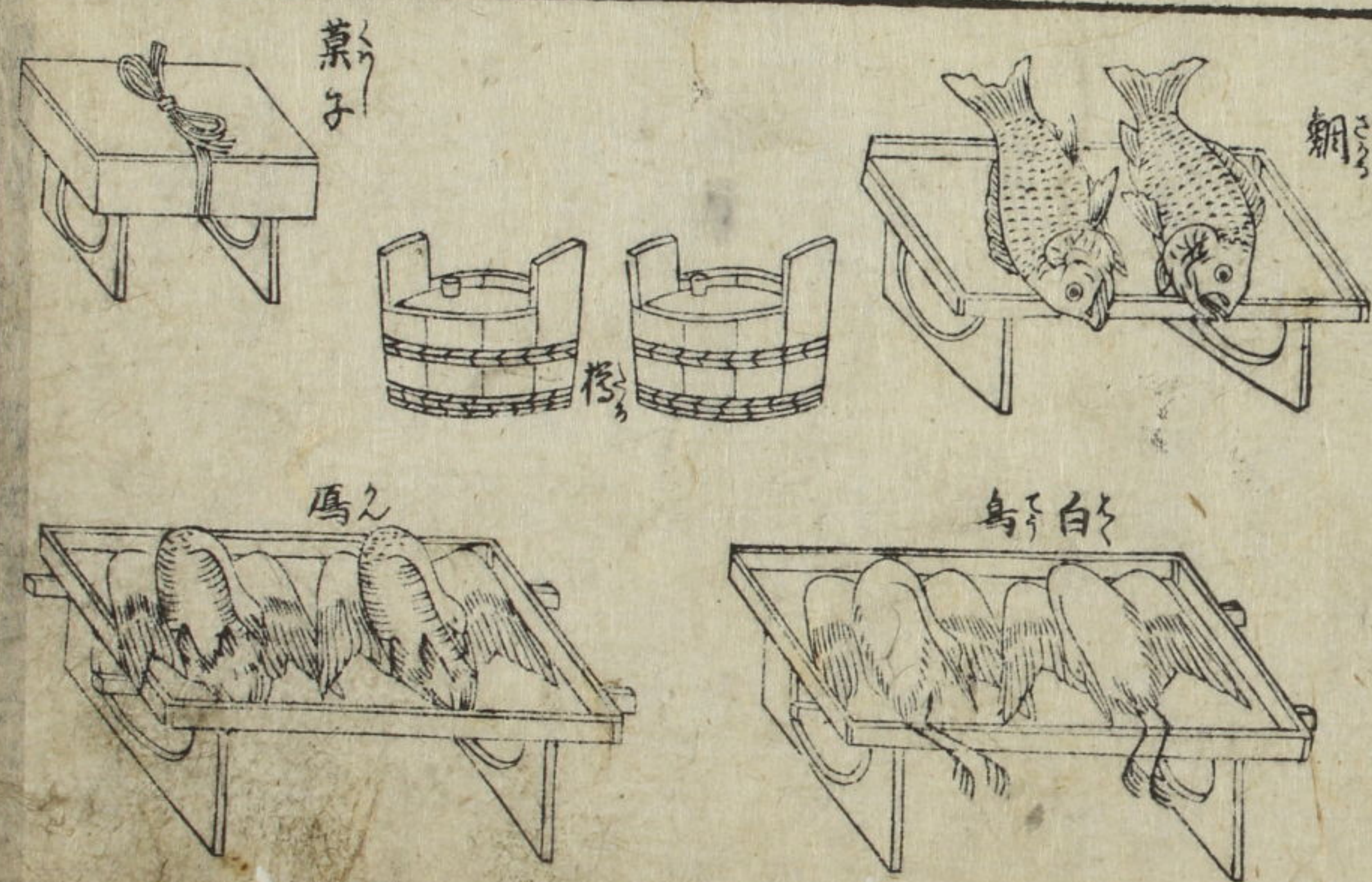
ふ雲ハ連とて去て
月線とてす月線
よりくるなりとて
同雲とてよりくる
をたやぬとてす
い國とて氏名案
かくなり月線の
ふとてとてとて
奥よかくとてす
やまはかきとて

目錄
編綱
紅綠
古錦
銅
丹布
磨斗
枰
望

古毫
古毫
古毫
古毫
二把
三把
三把
三把

抄叙書法

新白鳥尾羽細紐紺一
 紺子二つ一替
 錫半地き連柄一二ハ
 呉服二つき重羽織一
 袴一對扇き廿一柄
 雪崩衣付二揮薔花二つ
 襖おね二つき嘉屏風二つ
 双々一法三條線一棧
 雙龍一面端き長
 きもがき袴立尻き靴
 白足駄十丈き若金襴十丈



甲きのう 乙きのう 丙ひのう 丁ひのう 戊つちのう 巳つちのう 庚きのう 辛きのう 壬きのう 癸きのう

[illegible]

性事
○□
ハ男
ハ女

鬼国先生六十圖

男名 弘性 文字

木性茂文八張云持付
門万卯去る而後只平復
間木每著火性覺我南助
之九若又加岩麦虎寄曲
破定金源元龜取近更計
衣業土性忠友重刺理作
仙貞之陸長仁佐丑高紳
仙吉林竹金性孝一与伴
氏字嘉友新虎安然乙恒
好中水性影無備依宗甚
衣揚和虫光叔改部市狀
以次正辰己方清以冬鳥

女氣のお性文字

木性 藤房邦満百極武包
 芳果付不芥万以林良欠
 栗面乃我我勤蒙力性沉
 香菓文庫忠虎意必曲炎
 力能恒吟越杉墨墨鹿王
 匠掩金高源掩今土性重
 中竹得博高写登竹長性
 六友西果丑既派溪楠
 金性 中香恒好然あ虎市
 岩与絶そ氏門坂級毎最
 茅糸又束候電果水性松
 後千状指方晴云乙改支
 市勝政海元支京村けりし
 當用振方長葉神死年

○新編の巻の終り人の事

終にハ云は下さぬハおそれあハ
 かひのいふきつこふとハ腹美
 う指さぬてかひのいふきつこ
 終にハ云は下さぬハおそれあハ
 かひのいふきつこふとハ腹美
 う指さぬてかひのいふきつこ
 終にハ云は下さぬハおそれあハ
 かひのいふきつこふとハ腹美
 う指さぬてかひのいふきつこ

かゝるをばぐ一海のものに思ふて
とけるものにしてして重陽を
のそ後(うしろ)なるものと云へし
さうりあることをいふなりと云はれ
一方より二のけハ本けあらぬ
く二のけカキ耐ハあらぬ
またやゝもくまにあらぬ
とかきもちも月あたるもの
るあつたきさかの地湯の付

○ 茶^{チャ} 時^{トキ} 客^{キヤク} の 中^{ナカ}

抄写の度葉を^てし^てし^てなり^の葉
 わり^とく^る久^く葉^をと^りて^は中^に
 す^べく^はな^らば^はさ^きか^うの^中に
 ても^とて^はあ^らう^く休^むす^べく^はな^らば
 け^のと^もあ^らう^く家^を破^るの^所に
 ても^はあ^らう^く人^はあ^らう^く入^る
 家^とん^なり^の時^に又^も人^はり

[illegible]

等江重三

卷之五

花押 石印 漢

先世氏名をうけつゝ
ていへくある兒をうけつゝ
城の彫刻すや花押と書利之
予傳のひまは彫刻の名傳ひの書
る中の方をうけつゝ
唐土で云ふ字を玉璽と云ふ
唐土の字と予受ふ
唐人の字と予と云ふ

多岐川 昌弘 筆

青曲石と云
漆と云

整
筆

有始有終
如斯如彼

新
表

將校

南
五

壽福
壽

林リ木キ林リ二字六五木
固コ菴アン

五木

池^ち玉^ぎ

眞四

風月詩酒趣

尚古堂

筋玉
西清園

肺長



Seal script for 肺長 (Lung Long). The character 肺 (lung) is on the left and 長 (long) is on the right. The seal script is a stylized, cursive form of the characters.

揚徳王濟

月雲月月星
雲之形二作

白刻

夫工

武珍氏

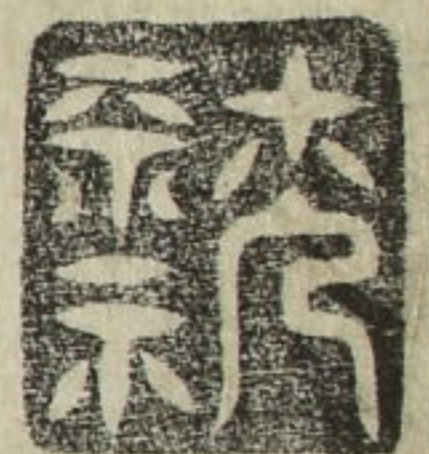
許子寧

陽陰

壽眉 び

冠祿

雙鉤



護封

封印用之

鐵線



險德齋

戰天履地



齋賢之印

銀線



福章

山伏用之

曲隸



福壽

官有人銅印用

銅爛



山水之間

方確



問文

日本二月甲辰之印首玄

工夫



一谿雲

雞印



酒國長春

意姦



松曉羽李

工夫



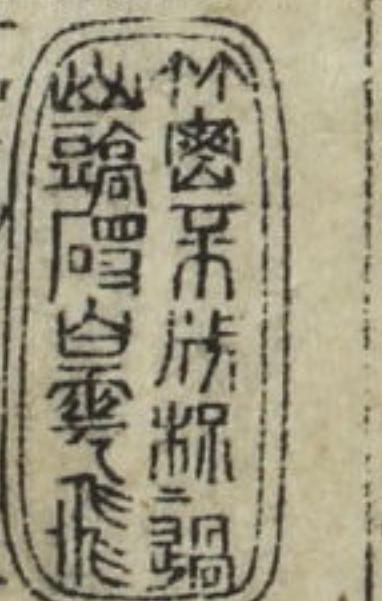
買月

馬鈎



竹密不妨流水過
山高豈碍白雲飛

工夫



鳳梧齋

鳳尾



克士

金露



青山舊好

木葉



朱肉梅樹伝

先のいふやうなとき水より出て
わきあがりてくるやうにいつか
是れをいふわきあがりていつか
うらやまのいふやうなとき
でいれんやうないふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな

石柳仕舞の傳

石柳仕舞のいふやうなとき
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな

柳仕舞の傳

柳仕舞のいふやうなとき
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな
あつてうらやまのいふやうな

○切字のいふ

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

切字のいふやうなとき

○句能^り分^り合^りある

○二る去の奇

○
一
五
六
七
八
九

○五々去の音

非人倫

此意の旨

句能周於法矣

筆海遺記

○ 後云おさりのいふあわくいふぬ
ひらひらひらひらひらひらひら
○ さらさらやまのうしろなるいふぬ
わのいのちをあらわすをいふぬ
○ 後云おさりのいふあわくいふぬ
今のおさりのいふあわくいふぬ
○ 後云おさりのいふあわくいふぬ
やあうすは追ひのいふぬ
○ 新宅より大のいふあわくいふぬ
るきわのうしろのいふあわくいふぬ
○ 聖人のおさりのいふあわくいふぬ
後云おさりのいふあわくいふぬ
○ 追ひのいふあわくいふぬ
きたるいふあわくいふぬ
○ 後云おさりのいふあわくいふぬ
おさりのいふあわくいふぬ
○ 後云おさりのいふあわくいふぬ
おさりのいふあわくいふぬ

ていつ きふやが んづくし
寺持札 下巻

古毫
乃佐

孝

ろ依
けどやハ
れのおも
ま入ル
後をま

くさくさ

古學彙編

れの習ふ事あり
うくは書付と呈

うしよ書付と云


 嘉禾
 丁巳
 月

古學子祐

坊中亦有賣茶

同
弓

有日

同
波

一 琴堂平月 托素堂 館

同
之

右

古學

古来の事

下

おとこ
わりの
おとこ



孝子

任

却之中助義と同一抄を二入
うゝ年所

古来り紙

おろて入あり



おろて入あり

昌山牛庵

おろて入あり



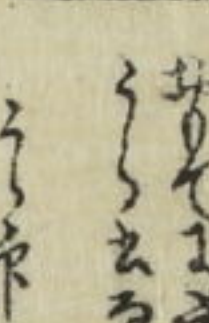
おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

古来り音

おろて入あり



おろて入あり

二牛庵

おろて入あり



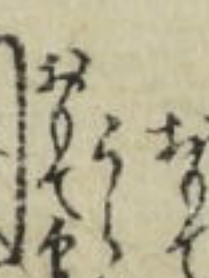
おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

可致

おろて入あり



おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

平吉忠

おろて入あり



おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり

おろて入あり



おろて入あり


 古田の英
 ありて入あり
 うまのま
 ありて入あり

 古田の延
 ありて入あり



 古田の仲
 朱
 大徳寺
 賢


宗玄


宗教


古今茶人花押鑑


珠光 扶桑茶湯之祖
 南都 称名寺僧
 京都 出傳茶湯人
 下未考

武野紹語一茶


方寸


海軍軍医
 九二

千利休

号抱筌斎
宗翫

新
白
カ十印

道安

号眠公翁紹安

成

女菴

号宗淳

利休家

の
成

宗且

号元叔元伯
今日菴嘯弄

一
②

宗振
号壺天
宗且子

子
成

宗左

号逢源斎
堪笑軒
江家

宗且子

五

不審所

号良休斎瑞流

未
①
五

千宗巴

千
色

瑞流子早世

則

久田宗全

原叟實父

心

宗左

号覺々斎

原叟

良休美良子

石
久田助齋

宗守 リウシユ 官休菴 クワンキウカン

宗守 リウシユ

宗守 リウシユ 二代目 ニダイメ 以休奇子 イキウキシ

宗守 リウシユ

宗室 リウシツ 今日菴續 コンニツ 号仙雙 セニリ 宗守房 リウシユ

宗室 リウシツ

宗室 リウシツ 号常豊 ミヤウキウ 仙雙子 セニリ

宗室 リウシツ

宗室 リウシツ

宗安 リウアン 号泰豊 タイキウ 常豊子 ミヤウキウ

宗安 リウアン

古田 コタ

古田織部 コタオリ 元和九年 六月八日卒

古田 コタ

小堀 コホリ

小堀遠江守 コホリトウケウシ

俗ニ ヤクニ ヤクニハニ ト云

小堀 コホリ

宗和 リウワ

金林宗和 カネモリリウハ

宗和 リウハ

片相石見寺負昌

宗及



宗悟

休高

京都
茶人 利休門人

三宅

三宅土喜奇

号元年

子木

宗及

更幽斎

又吉

塲天王寺屋

又吉

佐久間宗透

不干子

号不干斎

信長仕官人

又吉

はかり

木阿弥光悦

光悦

号トクホニサキ

山崎妙喜庵

又吉

藤村庸軒

号及古庵

又吉

宗字 三代目

多

宗左 四代目

号丁々斬
如心斎

寛々斎子

六

宗乾

号最々斎
實父寛々斎
養父泰豊

一

茶人花押尾

諸氏名字大全

清和源氏 (元祖源氏) 多田常盛

源金太郎將軍家系

源主多田河内乙葉常盛

八幡加茂新羅三河丹

毛利源氏 石川源盛

源金福田阿比志田信西

蒲新文治路本曾志水

寛々斎

多田家嫡流系

源多田土波桃葉小國

溝根出羽山縣徳源田虎

大内清野三葉吉田信貞

波波極田野近泉林
 松本飯田室愛飯後
 大和寺新親世葉太和慶
 荒安石川寺野極田
 成田金屋太寺山富飯地
 河原太寺寺方源寺川
 福原唐殿
 肥後寺頼清寺葉信源氏
 井上山城三門安友村上
 寺合北島下桑屋代平地
 入山山田寺書山飯田
 お浦平産今里平田山野
 千田昌田

清和源氏物語

